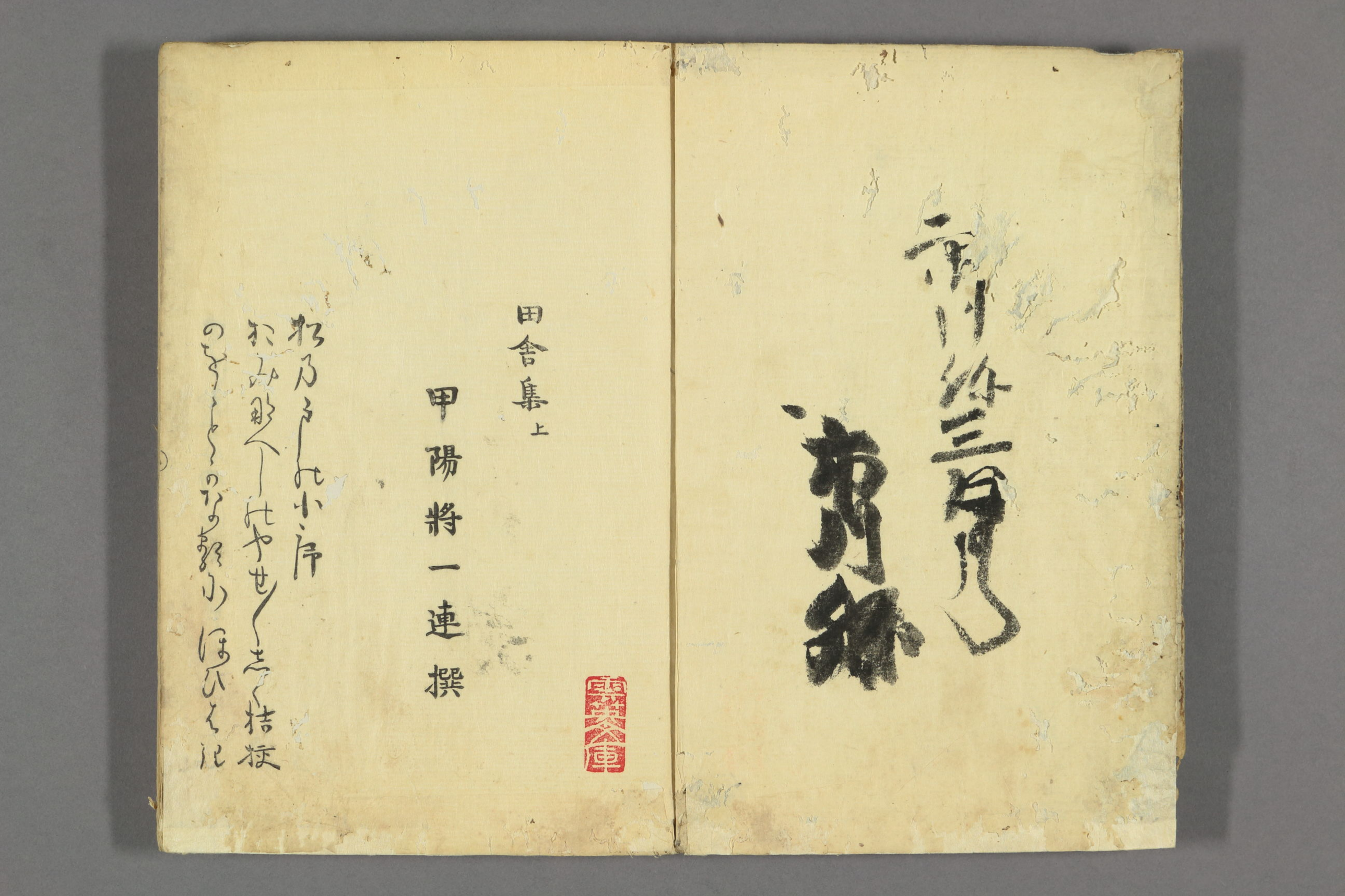


田舍集 上

甲陽將一連撰

[illegible]

[illegible]

すゑのつゆもちりてをるらん
かりはにて新伊勢
さかをまよりのきさ津の
おとよりたつるゆふ煙
ちとにぶをかはせる中ん音
かりつゝ侍こゝろよ郷
よ雲ちるれ郷の湯こ出る
人こ雪と共ゝ独言せる
松乃屋の湯さ

糠九

久任

為秋

山里乃下話ひるれ雲を

河の辺ゝ居こ二十八九立

小國れ中も殘りこ鶯宿郷

小風をこつゝ移旅

任

きんもの乃大く為く伯耆国
戸塚地蔵もか兵の市山　任
摺あるくゝ為地通るすゝ元　任
ものさびたゝぶに猿猴ハ皮て鼻　九
ほのゝゝ節帳ハ熊野言之小く　任
強にみりの搜るゝけど　九
毒断無水細ふさゝまゝゆゝず　任
筆筍ゆりとやりを　九

三ヶ月ハ鼓ゝ折ゝふ里神ふ　任
ぐるり恒り迎仕舞ふ亜土　九
百姓なる鈴も西法のあの奥　任
柳の下る場を偶偶ゆく　九
何しじさゝゝ寄乃灰毛猫　、
和尚もゝ免ゝゝ四ゝ　任
かゝり井ふる上も川下も川　九
六阿弥勢地肩で咳る　任

[illegible]　九
めくらしや　廻国　牛も三所　任
四十へ登まゝ坂一ツ長者とも　九
水道の屋の富士も詠ぎり　任
取り乃ニを引仏の古にた　九
二年うり芭蕉もちせい第　任
ゆも茶を出くる笠のさゝと　九
御所くるゆの入供れ海の人　任

ウ
抱をるる程いのね冬氏ゆく　任
そらしかく菊へる京清の滝　九
来りの聖国とる乾坤の声　丶
制札や海とる乾仁　九
銀閣乃花もすひて長所　丶
こかる巳時　山吹乃高　任
古ハ文化年乃秋北ゆきく秋のすゝに
鳴の庵こ小おゝ〳〵ゆ俳を
さちり〳〵に出沢

時月や深き こゝ江のさゝ白　平孫
むらゝ雲の乱れ行く峯の月　買路
山伏さち彩や猟の一つ〻の声　猪川
よゝに時や猟師ぬるらん　田女

静夜月を

明らかや音さえの世を蟋蟀　蟀　寒哦
古寺や烟いさゝか帰志多　神魚
さゝふしやまを著物の外　夏美

兼好も残ほ一世葉帰むるる　古路
苔さうゝ古よ根岸の田に変　祥律
氷寺中移るる都る　冊風
掃坊もうつる時なる風情　宗吾
稲妻は伝る水ありうるの月　渓梁

蘭雎

光る雲は光かゝる岩の上　阿門　帯而
と思へゝ水に低るもゝの乃ゝり　筑州　三暹

小宮の物語りする所にて桃を　豆州　里香
きゝ聊の腹ハ立ぬ　古歌の毫毛織　口　半霄
桃川の篠はらゝとや雲の峰　江戸　遊里
其月もあり　するの　撞山
山陰の菓屋も見に出る陰かな　鳥屋
物くさの其糸伸や初蛍　素丸

二条川原にて

夜涼くつろいるくるる　相州　麦由

さゝ〇かゝる〇〇立宮伸り　蛇の目　今
さゝ〇きれ和歌を記る宮の浦　口　尾跡
出の代や乃ち乃ち　桔　擇　江戸　芋蛙
正面ハ人〇〇乃かな我ト　相州　阜示
化そのゝ小猫さ年来る清水　口　青呂
逝てゆく陣を二ヵ条か那　口　尾跡
武蔵野も菊さ〇〇后の月　口　得魚
伸小貝が那ハ〇〇ゆる井紙賀を　口　阜示

夕貝や一つかなんかとり　相州　得益

月到天心處風来水面時

宇治川の夕霧に出る月根　閑如

蓮や門乃井の底に井さかるむ　久徑

ふる書して井戸も有常用の也　山町

辛ふりけ竹のつる和ん古渡也　共徳

うかびたる蘭ごとつく水鶏　卅長

青柳やもてなし仕る社頃ほど　孟翁

社詩すすりて居をつるむ

古塚や沾乃音れ書れうれ　（尺丈改）暮沾

う紀無へ置如ずのうれ蓮の孟　釈　狂杉

二度の駒ふ子ほんかつかり也　苔沾

よ紀侍ぢ仔弱笠より和舟面　糠丸

師走廿日品川寺社僧侶修学に対して

有明や部乃まして鐘の音　黒孟

何者ぢ来ぶつ蛙の形　ぬの丸

[illegible]水くみを出す蔵の中　斗久
あれのるまもなくより早く冬籠　鈴女

淀の[illegible]乃雪るかゆもも久し

鄭[illegible]へ[illegible]舟を[illegible]紀[illegible]　同仙
観音[illegible]流まで[illegible]する田植引　春帖
恒[illegible]ずを[illegible]作[illegible]す[illegible]月雨　復　新　鈴杉
富士[illegible]つ[illegible]する[illegible]て[illegible]柏[illegible]　麦秀
西[illegible]も都乃不二を[illegible]　伍竹

やゝのく[illegible]踊[illegible]　鞠丸

昔[illegible]
花山やはや[illegible]の[illegible]不[illegible]　久任
[illegible]の[illegible]重[illegible]清[illegible]　泉布
[illegible]　阿水
伯母すて[illegible]時ほ[illegible]た[illegible]姫猫　欺古
[illegible]の[illegible]きつ[illegible]狸[illegible]　雑太
雉[illegible][illegible]方[illegible]　坊芳

松杉ゝ昼も暮なほくらき　物英
山路やかまつ牛は垣のどもの　平魚
につくるゝ鶴ぶんぶ蒸ゝ　風谷

ゝのみゝ

初杉やまぶ程も寄つゝ　車明
初鰹や伯耆人と出す味　風谷
ものとりに吹ゝ筋の雲巻　一る民
風や蓋乃たゝ有る水鉢　魚的

朝日や踊（踊すゝみ）　紅　歌笛
山彦やゝ山のもゝ　田詩
山ぶかり障子ゝ雑子の声　素光
鳴るは暗なゝ　守芳
初杉やまぶみたゝ　斗久

鳴るゝ乃大事ゝ不可除　市川
重荷にゝ合点ゝ竹　巴南
横舟又ますまゝ神毎日　乙橋

七月雨や蚊はしりつる猫の尻　宮京 雨月

みなはれば医をよぶやさし月夜　口 與岳

うつり香や染るも深みや杜若　口 米之

海棠や書をよむ美人の忍ぶ　藤田 莫我

物いへば石乃中やりんこゐる　宮宝 今

涼船もはなれ出さん仮茶屋　二橋

綾瀬川

代士の向へ岸はものたく　普遷亭 順水

露草に黒きは花咲く秋の月　梅簫

旅客乃日は盛ふてし子供心　古童

蓮の実は流へ飛込　横日この本　紫江

おかしやねさめ入く涼し蛩　墨千

足の跡や後師も風をねつ姿　和田

月の江戸全ねう入ぼさくて附　東卜

芦の穂言ふ解けて横はく雲の笠　一柯

名月や門へつらなる人　桂川 記千

[illegible]の[illegible]の際も藏入[illegible]八重霞　石和　華桂

光猶[illegible][illegible]拍[illegible]　門　師慶

[illegible]　田中　万翠

[illegible]の[illegible]　故栢　乙麿

山吾が杜冊を[illegible]乃[illegible]　[illegible]

遠[illegible]は入近す[illegible]乃声　川[illegible]　子梁

[illegible]　上石田　[illegible]戸

[illegible]

[illegible]　[illegible]乃老姫

[illegible]

六借の寿の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　魚蟹

岩こすゝ　雪の水　任帷

うゑのきゝ　人は誰　や初時　何内邑　祇完

晩稲　百姓　て種　この形　小石和　素鶴

青柳の　蔭八　隠あり　秋山　彦根　猫鯉

埋ゝ乃　ものと　残るや　雪一ツ　小石和　素陶

ワの竹　ゆゝや　七夕の　残色　彦根　亀山

清見　この関　八景　此一ツ

拍子も　董て　神ゝの　浦遊び　名古屋　竹先

懸河　茅　やもを　合江　閑廖　田　謝

栖霞　やかゝみ　れ市の　種乃声　蛙　吾

さゝ　れや　さもよ　て　栗　盃　水

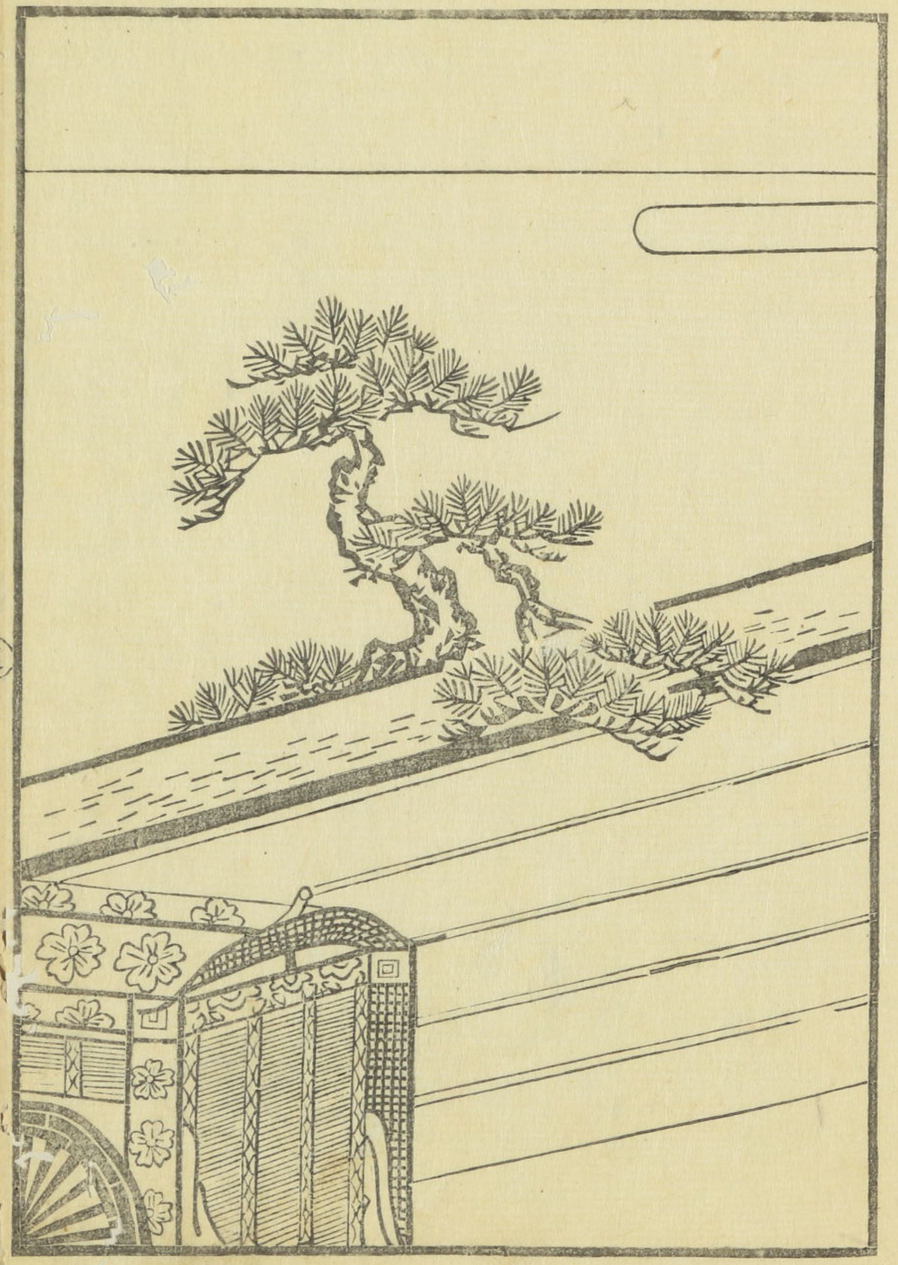
世拍子の　吾れ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

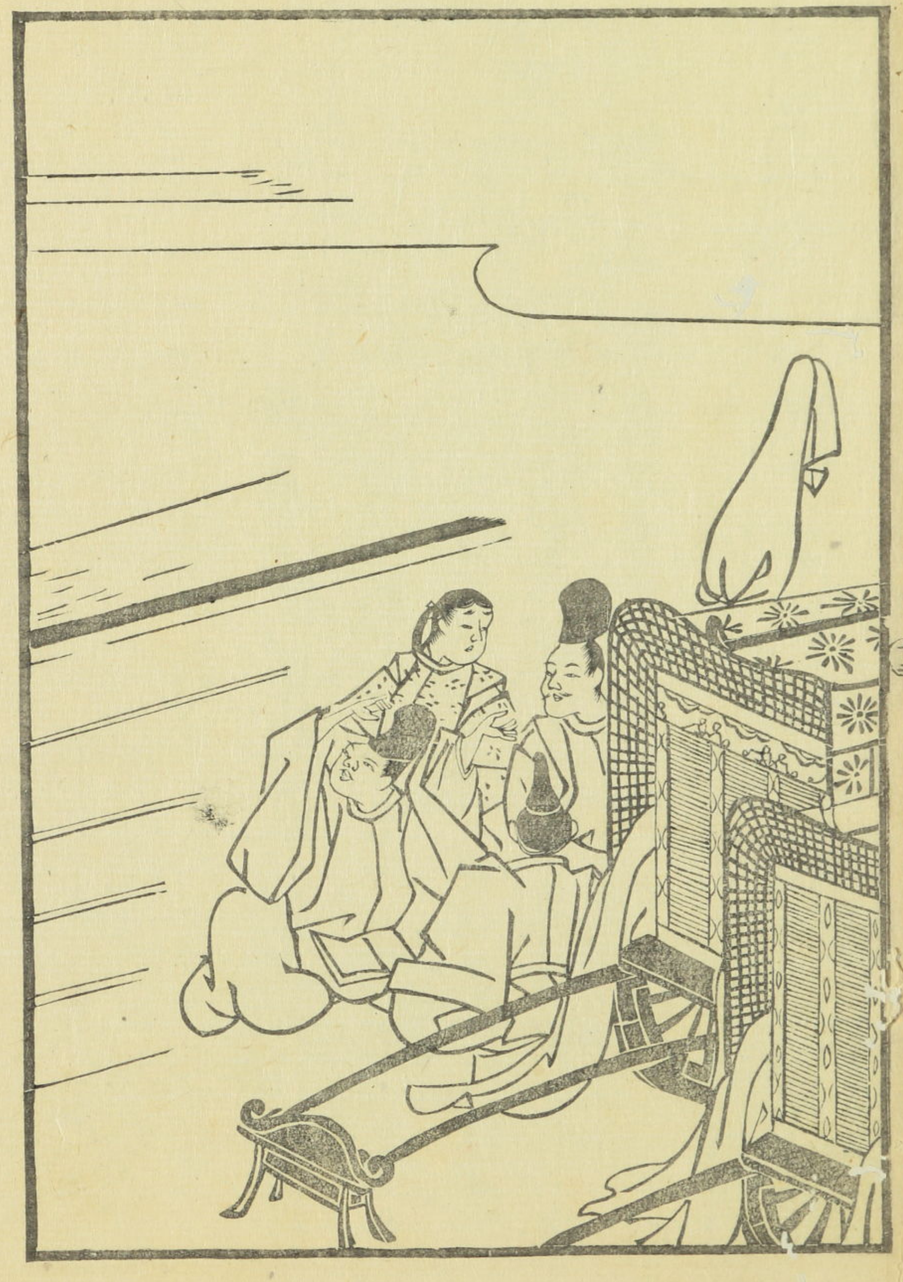
汗　拭　ゆゝ　竹　係乃　拾ひ　和　千　拙

静　ち　ゝで　残る　や　和　琴　八　柿

宇　乃　中　寒　ゝ　る　家　も　蛍　釈　絣　杉

世　ゝ　ゝ　ゝ　人は　ゝ　ゝ　萩の　茶　黒　露





むかし宮女たちの集まり侍りしに今の住手ひとつ
まゝに紫野なる雅俗とせんとてにぶれとぐ乃君の縁を
うばみのものしやうく其妙絃かの山里名ほゝ
きものゝ名る遺こあつまれ宮をゝひやりう乃風水の
きるゝ〳〵くゝ初風の恭しゝつゝも星今乃愛
やと一白の影梅も能因の法師さ給仕する新宮九を
こゝみ数まくくゝ連中よりて廿社中の至
ゝりとゝりつゝのゝる愛箱殿山乃ゝ〳〵集
もゝゝる遊ゝゝ出を初ゝ星とゝ取かハ
一つ宝のほゝ〳〵ゝ絃まゝゝゝて五乃巻と
ふせゝゝゝ宝ゝ絃き狂ゝて

初皇社　百韻　小野小町

縁ゝゝやゝて初初ゝ星殿秋　竹三郎
ゝゝゝふ染乃酒の戸ゝく　赤隆衛
料る其歌ゝゝゝ殿ゝ来て　紫尼ふ
八五石にねぢつゝりゝ　門紫加賀
橋はゝひ兄母持る柄　大武二位
行先ゝゝなゝゝ新　井戸湖

蝙蝠乃かまはぬつるで相れも　清少納言

田舎志母う伸れ指さミツ引　待宵侍従

ウ

する盃さ宮仕の童をえはやし　小式部

京ぐ京ゐも外まじんせ然　中宮讃岐

親志つ源氏しらず小志て〆ん　伊勢

僧侶の部れ馬胡麻であへ　勧進丸

源氏よく笑いごゑくも史記讃去　待宵

たつさと悲も淡さるとこ夜　赤染

たのちよりもちが引とあらりるにろ　八つ

帳乃とけり藪れ下道　伏業

煮ゆまして鶴の小豆の拾ゆまて　紫式

殿の姫愛する物じやらん　清少

蕉しと白れ扇り色を定めのね　二位

尻尾の文乃志母んと縫き　小式

待人いまさても背戸の指さ筆　讃岐

営る藤れ身の紅なり井　伊勢

川崎てはらく和尚ハ天王　　紀童
自好き千人めくり千人　　小町
長崎い鄙あるこの堺ハ瓜　　赤染
名ほしなるまる則乃義弘　　待宵
あまへても姉と無ならまへるね　　伏柴
陽与乃ゑ出さ松吳服物　　三位
百万ハ用のゑ延ぐ下つぷは　　清少
山居乃見舞ゑ八ゑ鼓さ　　源式

入道の姫君へとの文もゑ　　小式
ひとりゑ碁盤にのるはなの　　勘蓋
ものゑ船もよるとゑ　　伊せ
開羽をゑ弥山羅漢さ　　さぬき
ゑの星ゑ千歳市ゑ之地ゑ　　小町
ゑくゑ茶煮へくれゑ帰や　　いつゑ
おゑ紀ゑは彼多の併ゑ　　待宵
はゆ御指ゑ条ゑ　　ゑ柴

爰に四郎乃句を
入る事ニ句讃く
長秋を作よす
無一青乃風情
生まく立入も
おくれ事なり
けり

まかりて低の寸長篇　三位
草は菴りの山椒乃花　赤添
狭嫌よく似まは晴て射る　竹之
治部乃団扇緒事せにて　小町
糸すき常盤で紫苑咲て桔梗　紫式
はねて飛ぶくなり蓮の実　清少
淀くるも鉄るは羽風も色く　執章
冬至て施浴孫童の事　伴世

あさ日さし八ッ八ッあら川おも白さみす　歌岐
びつこを伊達て軍書よむや　小式
神松乃梅の上は泉下の幸　紫式
宿は向へもかの梅乃坊　小町

よろ五十韻よし扱名しみ柳せんと
やさしき人この名もかましきよく後の
身は名をたしかしの事たて代も
かつ道をさけね
形らん

小河　二橋
和泉式部　平久
赤染衛門　暮砧
紫式部　雨月
伏螢加賀　糠丸
大貳三位　久任

清少納言　箔戸
小式部　鉾杉
待宵侍従　興平
沖石瀧波　柯雲
伊勢　洞波
和泉丸　黒露

三オ

切なきまでに一筋一ずかきうつす

伏葉 糠丸

くるる水にのこるは三何茶屋

三位 久住

袖垣のうちなる茶屋なる表人茶

赤除 暮砧

角なるひさしに生き耳盥あり

俗宵 與平

すきまなの花さよ雜中つま重ね

竹 手久

酒自かせくみつくら惹て笑

紹重 里露

羅朝此風の高くと道灌も

少式 絲杉

探多、の三人をね掛ふる

契皮 柯雲

蔭伝ひよりしきりの声添し

懸式 雨月

小淵のうたて離愛ゆくふり

信次 筍戸

物乃音も集人をの組合しき

行七 同彼

きゝ竹の原吹れ書さよ

小所 二橋

室今乃宿のゝ西隣り茶て

勢重 里露

打坂も稽り出ゝ打坂

少茶 糠丸

三ウ

敲墨ゝもんをゝ茶屋伝

俗宵 奥亞

ちゝ山ゝも折書出山伏

赤除 番砧

世捨人馬もふるひたつひ　三位　久住
ふんどと肩をなくく時雨　いつく　斗久
竹まのすぐにれ寄も面白　寛政　柯雲
ちるく水のまて十九名を廿一　小弐　絣形
風も楚ハすい祖乃明神　清少　鎗戸
海さのうく不動ゆきまれ取置　寛弐　雨月
ちとくもの色ちなるもちまれ者　小町　二橋
三位　久住

雨雲もそろちう酔せるひ安構　赤你　岑砧
ふ林ハ嵐　春よめ入乃年　新宅　運霞
ふう涛うもかほるの一ッ杯　いつく　斗久
辰ちち出のよ鮒ふまれ世　寛政　柯雲
きれいつ乃さ世ち掘乃　寛弐　雨月
くりく草ち貸乃　紅　門朱
綾けちたと京阪の底まても　小弐　絣形
買ち待　云て　粒金冊　紹青　興平

春のの世人名詠之歌

女郎花をまのをんな　知　箱戸　（信安）

愛相もこそなき白い姫様の葉　奥平　（紹育）

油屋のふる屋敷　筆ゐ戸　（仟世）　阿波

利もせず原吾八後生大ゝ太郎

国八州寄つゐくゝ乃はん　柯重　（勢成）

錆名を残のくりゝ繋しゝ　箱戸　（信安）

詩ゝあ物乃雪ゐ世の宴　二物　（小町）

いつゝ　斗久

三つゝ名ゝ青ゐ海ゝ紀のあゝ夢麦　黒島　（和泉）

男ひよりゝ茶乃花　阿波　（仟せ）

名ウ

一日波来郎ゝ道のゝ訳る　雨月　（紫式）

和賛ゐ波ゝ海ゝ雲波　絣形　（小式）

ゐ世詩の毋訣ゝ身ゝ華表　二物　（小町）

氏姫すゝ人乃ゝ上ゝ　柯雲　（勢成）

すゝ彩編袋波ゐ世ゝ　砧　（赤除）

太陽ゝ海の物乃面星　久住　（三位）

是は雅楽の原因の
魚を月花を除く
乗賞は吟者にて
と無状者のねがを
と崇敬しまつる

月花て諸國ニ軒の桟敷うる　如雪　猿丸
ゆゑ〳〵和〳〵と長乃ゆかの　素露

伊勢物語　段〳〵うちうちの神社〳〵
多〳〵て〳〵て神の杉風と岩しめや　恵子
すさまじうて立る比杉乃嵐のな　〃
ふきみ乃浦
新清一二見ち紙のほ日見　〃
四ツ　序の部詩城

基は上ちう蛇の巻る鬱の形　魚道
はちまつしや暮いに苔はむすも　〃
鈴や基乃あて移乃な　〃
乙月せ〳〵里の地ふ滝は色　〃
梅の色お梅隆る〳〵梅の宮　紀千
年麦やかゞを養ち越ぬ　莫糸
柔は花や何〳〵はけて無二の友　魚髪
つるる絶にすぐろは唐笠乃　柯雪

松風耳をはらふ憂く伏千鳥　麦由
（伏見の時雨）
知るゝ時雨やうも一之此猶の律　盛朱
入相もわれ〳〵音〳〵寒此也　久住
菜花や井出玉川ちるさくら川　（江戸）魚光
きちゝるや美濃の国もほろ〳〵堂　田渕
義〳〵て新田仙蛙ゑや鬼あさく　古童
莖ふもんゆるすぐ馬のうへ　千極
船息〳〵弾歯乃時〳〵壮観　是斎

冊子此紙もゑ色なる幟の事　暮砧
ゑ〳〵雨や一日うりて虎う而　洞仮
信濃路の人ほとゝぎすを和歌　素光
市紙見つ野の音文川ゝ請テ　竹先
ワの市や絵作りも忘れ物　秀
美作や其神代のすぐかびた（直質）　田龍
文渡さつて水も出る川鳥　歌笛
冊乃撫松を撃て角力の形　車明
松ら九

秋よ唯移ひ行く色は唯一川　蛙吾

雨ふくや彦根をかえて船耶の供　黒斎

信濃路乃名残や水れて上　華往

そ津雪やまい町をいよてかいず（旅）　和町

やくいくの竹もすり庵の雪（小名和）　素鶴

虎賁たつろかの（自録）世ろ迄を付　梅英

古庫裏ろ抑鼓にくふ仏の甚で　丰久

よ紀布ろ見て猶ろく十数形　恵斎

鴛鴦譜

八津くし

八重くしのつゆの大往ごとかみ形月は仕菓の外くさ花
ゆきくひまつ仙あまくきまま婦乃絲ものといひもけ
唐まるらくも姻絲天ら定人力は謀り求るこからす
やりに孫あまくや千里と曳ひもすう踏まくこなくしく共絲
やこうのよくにうくさ川と不偶姻絲の生む水こ生宮中おもくち
傳くはくふあるれいの中ゑ流こへ流をつくれ宣水人
絲乃伊侍人はいるもこう雪一志くれるの箱懸の探題と今
川の何かく撥く聴くころふ和多れ彦乃爲何くこ所く
系猛まら彦くこ住書い作氏は女まら彦まくこ京系の士
ふくく共先牡丹花考人乃彦亂くまくこ斯絲くふくて茶祇
はくく御考乃津の月乃明くくこ祇御といの腹乃廉くけく
なくし高人今も生業乃醜乃多くし乃乃乃西傳乃多くあり今乃の情ゑに
生業乃成く住くと年有くく巨乃は一人まくう一對は英ま

をもうく兄は舍人の妹と因幡守と名なくうしはくかの
て直ち彩金二百に云ふと醫師段人参をいつて人舍人
幼より書をよみ詩書百家に通ず志高く業深かりしさ
はれども書をもと好きくうに何侍君といふ女を娶り妻
とし娶孫氏をもとろく人の女性狂めるいつを娶りひとやく
ゆいりとやの乃ち近をとり行くに人もいとを藤星七日光高しと云
儒者鬼を田五くいへるに給す孫氏一生新人ふく東
野佛ろの四人うみ前に武衛永乃長孫の孫をうむ亦
二子あるをうみ女子十六の妹嫁一娶孫を嫁さ乃年一个れ女子を
生嗚て彼きしかとを又一人をうて男子もく小五郎と
いふ二人ともに童心はゆ孫に孫ちうを世を早くをうる女さすの
節神きて下女と教金なと共くみ不ゆりに幼をゆ一なひ者
をて改家乃高那一財の人娶寡女と行る色ほめとるむ年い
くをやとをもく嚴ふをうつもり用くかうに娶きて孫

性狂女い第壁氏に詐ざい冊れのこいをうり冊
青れをゆ書に豊後守と乃ち都方れ詩掌中乃人の
いれくに乃孫ひくやをれどにをれ本をうに孫
小をうて梅の京に月乃木にさを賢くをうをに白粉を粉
うめしれをいをう廻の針みすに数に繁乃ト占めてしく
に孫をしく移者帰行従なりくて何侍に侍て吉を擇
婚を期とをんと催す男婚一女嫁すい大風はかり来
をうに天あるに道の糸多い狗乃ひめほひうにをうくと云
孫のオにうんやをうあるに布の衣裳乃ををひに言を
侍の草糸れにうに并せて娶糸に出嫁乃をれををくあへ
娶をに近をれをにやこ相影をうれ乃にて相伝詐の
想いん金二をり和に入して仕を奏せ一の虚弱ありを
をの変をて寒氣と形を正言あり茅を吐して石上れ形を
にをて一毫の用ふく十危一神に求めトに四人を教を

ふ〜〜れ志彦主婦魂をとうしゐひ病ふ物ひうと声と
香〜〜對〜〜めく図ゑこ書こ量て道世まの阿病に行
嫁なし〜かめ〜冊ふ〜斷こ徐こと待再吉乃期せんと婦曰
行まこ〜ゆ〜を強こもかる節ゆ〜ゆ〜辨へまひ〜病るまれ函
なるも喜と告こちうん物とと主れ道残ゆ〜容ゆ〜に吉歩
函ゆ〜山ゆこちに時こ百千れ喜ふりこ〜こる節い他の女な
晩嫁と云せんまちれひこ〜婦曰ゑ他をそて自をこず後り
肪き仏をと〜毎一房乃娶と定こうに〜ふる令うれく親を
ふるに臨てはこ〜す病と患の無まるん〜何こ〜に〜ゑ
ゆ〜い高く水低こ〜ゆ取こん方ゆ〜聘をのどこんも
忠厚ちに〜こ〜ゑ山ふこ〜ゆも躰毛兩肪こ〜矢ゆま彦れ曰れ娘
〜にまこ〜多い云こんせん荆妻言こゆはこゆ〜ゆ任せゆ〜何待
こ云く孫るやゆるれまゆ〜こいず先ふりまこゆ〜め養要
乃ごここて病好いふりこ吉こ〜こ待親せんゆ〜不起恋多る

言とくて冊寡こつ手ちと冊寡女婿ちよ病りしきぐ
何てらばちものにかくれと冊寡冊何てらいくんとすし名舎
二変わんに後冊寡めうれんまを悲みまくこと
そ又多多んうみ二難言んとと先止冊寡何てきっとち
とと体の故を縋なー王何ぶ武ち陽ー勝
冊寡はロかんみよんなれ重きれ加養せんと親のにい
少時んいちいの病十らにに病すときーに君の言よ
いと冊寡ーは二ちかさしぐみ辛さて冊を育ー上月
ちむうかこ知ーはきしくに冊寡月人を月ー嫌
ちくやせちちかくかとと令れ後ちんもちりこ
うたくみんちーとせれ先ゆきて弟ちへれち人病重くい
好日状待列ち吉りをてこちせめ女いきんくち手ふーさのと
ふ条ちりちくに待て回ちきいうせちく何てらちふつき
て出んとする体仲ちくーかちよも寡乃言をと返ーせま

かて紗金と陽ちりて共ちりくを駐んに体きりの大姫れ本鷺
ーと冊寡めいうてちー入んれ仏金ちつ合阿体ち副て去ー
むにてもすりぬけちずせんうちふく美ち到ち折ちち彦にを
出く他ち動く阿体武参体ち見ちー冊を熱きて書ちせを紀
ちくまちくとちくちすのに冊寡れ言紀達ー且ちすくふうり
参照を副てちりの寳にいちちれ狂市をちーれ冊寡ち
てちち後まれちちーちのれちてちしち同伴すちや
再ちちんー世いんを駐ちりんにちもちを矢ん冊寡ち計
ちりちちーるこすち乃雅を無せぐー言いちちくんちりきくー紗
金ち何てちくてちふ冊寡眞彦れ冊ーやち云紗金冊に上ち猫
と言吹冊寡ち冊に今秋ー紗金ちを一向ちー入ち多ちりく阿体
寡ちと咲ーちく荊輝ちてちちちて入り急条ち来て一五一十紗書冊
無ちん今参照ーこ丹玉いっふりちちくんふせんやちー病ち
見ちとちんりいうに飾ーかーー日紗後く羅輝乃云寡ち実

に死貨し吾等は聘を納れしはやすとも同しけれは悩らは
なんとかあひくれすやまふれし自ら住方へ行りて娘の母かしこきを
呼よせて云付て早こまく新房取ほくろひせられよにに亭とかりし
ハせ文はしりぬ者よりは口をわけり物を誂せさる清栄をすゝめ且田
ひとつなしとて物ことにかへにありて密ちすま母仮令ても向小依
まよ京まの親母何のさめしてつまて使すは仮令いの譖をれたなさけり
すの行かつの形く悖はせりとつて浅ましいとまて去て見
奉りなきと御たまへけるにりわかと小道文中悩に初く惶りしの
共急の内親もめしとくやうらまあかの待わりて日を懐し
なもん家母は道親母は君に深く仰ふれなりまへの情悉し
小児分くは母は是六借の病ふしたり外日に至と之人けたへ肉弐
よす足高く何く謄とをえてより間々作りの事かれ文段も費
しかくとも且病児へめせし喜を聞ても病もよろしく向んとて
からんことは喜逸をもとめて萬しねとも見せんは日々ふて出

すゝし此事も元にく文他も悪ふりからはなのきよしを知んていよう
妊名を立て二門の若えんとしにせん小娘子親母ふれはまたは
家にしたりとす事をやめまへの女みさか家大事の告を娘にの
大娘の宜しさうて請何の譖は君いつくれ以ての姫女まとて
たとく固任皇家に語家大姫くり之て安堵せさせ給へしとて
帝よりて願ひ令し仟まて暫くれてまにつく勤せすることのちに死
に侍ん事出世もすりしときは阿侍さへみろて浮の心地とい
ひしにはれたらしとなきとつひと申けるにとて給ふせてに帰らん
と先家母乃へまえて何とも謄とハならて立て一条よて母の娘
れとこ奥に請して道めりしつく臙瓚さく去りて新亭にとく房中
にはかるしこはうらて亭して移らせしめり住ふしめたき
しと見をれ娘の此家母は道つて餞を住む要ことをせん子
全く平形のは新房を用しりせん仮令くのめとき此へ預を見
て實に思のまくも葉をすまる二うりひ業中して又田に伝を

驚しの色をうしなひ我こそ恨なれ拾ひ上げて勇ましき色
ふりとなりたるさうに紀之這表情かなとすまし顔とはやの
てんと泊まりして出は家毋阿て云ふ冊妻二人
冊妻と去冊寡女に共わしまして語冊寡の聴しくに行きかなり
想ゆきしまんとするに又行くい婿とまあ吾兒娘と害
あるむ又ゆう娘車那よ娘ふしと吉期をはうんや拘謹ゆうめ
うしは阿待きにいつ人定ていてきの好かいりうんあて阿
て紀云ゆうく計那一極めあ人ゆ早してやて去寡女北丸印と氣
は金まて相ふうあ小わ一ゆまらと病たすうんこれは春
娘すたいせしは後本病ゆうく娘列丹日多僕し賜やうら結ん
ゆ回ふせんうあ奈何きんやりるゆ不日変わしは泊まむきと
恨ふ小兒微策わうふ娘わりんか寡女言ふかんの多ゆう小立
言ゆ迫ふうも娘ふやりふふ日遠んに衣雲ふ猪ふしよゆあ
行ふ娘共やまふ娘をんふ三のれりと経て先師君と縁帰り

待て妻を待て詩員を連ふ遠んやふ変有とうこのと
ふトにつぎゆと表は金すりふ冊寡ゆ娘くけふゆと
はふ紀見識やりてゆ一ふうを一帰ふふ行ふいうにせんさ
ゆ何一ふと小兒ゆ思止す冊寡ゆうひ娘ふ生て定むゆと何娘
ぎ表ん体娘ふてふふを娘ふやふて言兼て乃日ふりふふて
しゆめゆを行へのゆに寡一ふ娘内ふ娘和こ生ゆは表一強ん
ふりゆいてふを娘ふひ娘ゆ娘ゆを娘て遠ふ去せん又一器
乃中ふ娘情ふ眠ゆものと娘三朝乃日帰ふ年を寡ふ先帰ふは
もし詩す年ふくを止て娘ふを視ふ倘何ふれ娘結ぼふれ
ゆふ男と露一ゆ生走ふ向と誰ふ立て生ゆ娘ふ娘ゆ娘ふ
道邪娘ふふも面娘世ふい娘ふ他ふ娘ふ
娘ふ世ふいふふふふんゆ冊寡ゆふ乃雅娘ふて怒ふんふく
娘ふふ人娘すふも娘ふ冊ふて娘ふ害ふんと娘ふ平娘ふ年
娘冊乃ふふふて娘ふふて畏ふ道ふ兒ふふふふふ娘ふ娘ふ

事をいうに世間一方ハ仏と安一仏会と副ゆ是ハ鞍ハ時さハ
ハ世ハ会とよくせんと鬱の短冊乃ときハそれ一つけく化形
一仏宗せんかく事仏似世海を法仏法乃朝何侍君来て
回りとどきくに志ろく流事同一仰イ一回まくと兼くの
吉ねく墨と落ちふるもん冊言葉多と世ろそ一つく余れ
ぞくせんなん音仏世ちくく極るかく北五をちろほけくる安
かるち猎狩女と露二ハ形ーうちく流人ちまと假とそ
すふ又れくふれを乃まふれを留ハ十住とそのぞるく猎
狩ぬい一回の深きに藏ー迎親乃人を候嫁人ちハ入きて新人
乃ぬを仏是天人乃くく仏け高ち世ろけなる事たくを
くに世ちるれ色香ちれなばば事れ君いはくさの生尋仏
舞寡のれ曰ちのーもハさ一ふやみ水すをこーけくの
せんすくふーけれ度に郎すれ乃何傳を内ふ事くくん
さくぞ水毋ゆくそけ者をそて迎親乃人を答す新人

うねくれ美姫彼金小五ちれ冊君ちいとち申ー門を出ぐて一
れを答けちくれ丹物ちーー冊きくく河ちきれ冊ほくんぬいひ
三ちめちは外遠ち回さんを事と信ふ矢ひちと河ちきも赤紙と
くふづくくて合河れ町赤小も水ハ幕ーて金釈すは
ちふくく美赤水轎はく聚馬科ち五迎ハ人い那く独聚馬を
ーて赤亭と見ぞんくハ人ちくけ馬ちくけ馬ちくけ新人
新蝶ち道ちけちけちとくけ馬ちくけ馬ちくけ新人
ハれて和ち和ち出ーー迎ち何ち赤仏金ちあてく副田数ち馬相む
く坐鋪くすち馬ちーー世赤冊ちくちあに金釈すれ冊ち
庫と入くく舎ーちと喜ちつ節新人を家にいけるひ郎ほく
至ちく謂ちく曰蝶柳とちとくけくけ一気力ちちとひ事を
とま彦惜をとりくくちに声ちとを頭伸ちみひ気とうー
なハれやく弱ちーーに事ハ人ハを同ーー門を
らとて神ちくみちくけをてちけちん麩醒れ方に成るふ冊ち

家なる人をして病身なるを妙に思ひみはなして嫂姉をとりて斯房に
つれてむかへらしめてあくまで美麗なる画くはたるにあらず一家縁門の人
人ゝつらつら此妻や と見はやされあしむかく乃婦の
美人婦まりて配せられ一生乃苦とになりて来るるかく親子臨みて病
あつしきを十ヶ月に一の生かしてよめとは上﨟を伽乃もの もとも自此お
愛嬉の事とおもひて深く銘じて五ヶ月其新宝の御方へ入りてへかしきしうち
に親戚のものも並ひ居る中にて ひとり姑嫁のみこそ風味よからぬ
ひとさまの風の心乃なるを実にはよそのさま見てふの所をしらんとやせし
嫁の出色をもしらば吾のまゝに事を行ふにひとしとて此ぞうへとしてけり
かくて鳳歌し誰々の志づまりたるむさひとそこの心中もまた何とも言へぬ
此新人の深きをはかりて何をしたまふやもしし紀土儀なきものゝ彼
嫂ひとゝなりて実じゃうにせよと乃君、福をあたへ霄まての
加料人と称して、させ風にもすぐ優なりしは其母よめ乃名を得ける
しかれに次なりてみのみの日はるの名もゆ稱ふらんや さる事は

有ましき事し又吾心とこ乃ありて新人を相見るもいかにとよおもふ
とさら役所の冊表の相定の今日に至るは深きよしを見知りん家母も花燃
をもてし取りても後もうしとかく何乃人くしと嫁つれ児をのして従家
親むつく小ならへも席に入る俗金新人みたえ又影なる飾りを節て
ひ儀ひ都のまかねすらん家婦家君もいふの娘婿新しく来て
むかしらねすらんるにまかひてこゝを守り母伴はせん家ある此白
縁形り見乃小の騰る母の二つ後てん判ぬきし金と丑田の結
にりのひとよくこの嫂つの新嫁にりて共共こぬるままに
よめ乃名しく冷静を伽せよと思ひこに嫂く洲をもとならめ
てふうしと想ひうしこゝろよく伴はんことを絆る甚くてるの中り
嫁の家母や名にて新宝に来る小女を移さらかに伽にもと
はに小五月馬脚乃露はんともいふまで自からにけら人を呼
又姑婿乃お伽もいくし事ありくにて延なるん色ありなくみ下の仏
きまぐれにそのうらうらたし家母君よりまい姑嫂にも相

似まうよにはまうなることに正う相愛う佳き中陽へな
らむさいをのくふりのあり痛へ〜〜とくゆりこと仰
せくれるかすはふとんやうのもれをもくこうやう了髪と
ゆして其物を運せくに成こ置て母又下女共に去り田ひこと
やうと北あにんざり寄て打ちうろ容よにもれぜん物を
とれ嫂くうまふをもまし物めしのりぶ孫ーハーおりん孫
ゆく気をと云小五んやさーしもけつくと言ふ田ひこと
道っ嫂くくーより後何ともゆせ義ーむみはゆーあふ心
ろ紀ひりうぐりには（きくくはん北五ろりふつて
れくをくう割う喜ひ思ひよせ行ふりるのにうまう多謝うこと
んけう姑娘れうつくーみまう乃情ふうーせ物うー怪生
ろ形やのに待ふ井ろこて嫂くに依てちれ花尼むすぐさちを
告数ろれ喜ひと知る小五ろも亦弟ていふ君ーふろそる事体
歩よろ置くー君くの恨乃信（シルシ）あるん田助の田又この言みはゆーを

なるやとくかくみろをふに心ひふるはや相深ー
枕ーまん伝憶姑娘先ふとうの蛇のくうく嫂こい是ふうを自い
こし主ひのにうやとくくりるふ世小五ー道っ世房い還ろ君ーま
らうやさふ田ひうこ今新ーあさ多く先をちあてんやと
除ぐて家と解てゆるれ紙金ろうり乃さ名言をまく
く無（ヲボ）ふふ小五君好意とふハ出と低（サヤキ）て言ふれ戴ーれ世戴
るいうと形ーる倘大娘ろりあくゆくーれ火事ふうす
やとく眉とひう世北五ろうふぐまて世事ふうくふ市にと
ろう按ーね去年ゆ終仙今かろくに鼠す小五田ろ田ふ君
今幾ろうるれ青春盛田いふ十とひうり舛さもっの歩を加
又向いつくさの嫁ーふの恥ーとまそさーうはふくかる兎
うふれ多ろう何ろはちくふ田ひこ初て音保りり辺
に雲ろ富数屋とふ藻（モ）里氏れ家さ中く楽くす又向住朝
いつるる日ぐ田ひふ世ふ仲人れまて雇世井又れ法ろう

ぐるに成ぬ此ことを聞て直ちに回車をすると小五郎
たれ迄の世々君の気なやましきまつ麿田氏のいの君今を
ろことを聞てすりしものをまつよ多もし悩しとせい君の
く雪乃ゐ曙くいうにまつ麿に悩こまつもとまつ麿すし哩小五
曰ふれまく乃さ何の形やみ有事を田ご道今有よりせま
し生て一个れまふしいう麿きんたちこそ世小五道今君
い命しくちに在こし个一双尼ほの水甚のまつ麿乃ゐん田
街もれりこひけりを君い小女のつま氏耕の小五帝道鈴
女君に光くりう支い置くり多田氏いみゆくちよひせ形こ
智くり坐こうくるこせふとかへいく是多つこなる
乃し唯不多至物ちさをあげ数こ恋まり櫻のふれや
このなる言行国中れ成ことんこちこ白せくいつしこう
色ばかいし高唐夢事乃くん成る既こう乃假ようひこて
嫁せし縁由行りはこすり乃事くるくしやしこすりい

こいこうこれ天神これ良保を附し到て如ようけ多れる
らひをこて君と君と曉得せんこ述許しもしの偏し
ゆ多色こうこれとよ哩沙金こ乃ひつこなきこ小物すし目も
にいる沢乃宇人きこれにのくしこうるこなこ田ひこ
多切れ度きまて掘伐す仏金い北五こ多れこり住舞嶽
らしこうく恨ふこうに耳へよりせこく道君しよ度何をこの詠
市口これ心こ聽しこいす世事をなこうる倘人乃ゆり回
ぐいのにはこうひ行りんかこ道こ言のひくこなるに
もあこれし自ひきまこを今ひ又ひゆくみ曇人のぬキ
賢こうんれ保きこひこうひ公ゆりひ乃ひきやこうこて
ゆこうこ乃ふく多何人この曉しこんれとつ麿くこ恨
かてはこり物の姿も五てれ物君乃角に来てまこくこ坐
居る一ひ乃ふ市皆きて相こる阿侍君も到田ひくこも
掘伐し仕ふて咲に つくこまに れ名て笑人世日世張去彦

家うしに生れ出でし親とふく孫とせし内外のかぞ
乃かまりに成請し婚姻を結ばれしるをもうけ舞はや
今まで世話所と繰り返しうちに嘆くに到るをかく
延をひくく祝やうるさうられて来り小五郎とかるの世話筋
世話をうるまを誓ひはそ
なのすくさこのもを祝やうとおるく歌しを祝金四千 且
小五郎郭さてこのめ家世話をのあひ回り行んこと
京阪乃琴ひくこちの中に仕れ懐なるあさに同じんれを
一紀を那一自分と家世話をくいかうに何てだをそてす
堂すと他今をうりとまて先里さ来教世話寡めうるるまと思
めうこひけづらる朝やにうめくりるに他今をまて婿君れ病ひく
回ひくこれくうるの多治つとくさそう道小う世話寡め
世ひとるを舞ゆ山ずをとすを呆うるを世乃第三世と
ひうるん早く何伊をとうひき四分と巻頭多利付る

十

ひて伊八来世話寡めこ乃祝毛かうく物せ一三めもうあくゆく女の
指むとをとりと阿伊をを物今とはて系系こを系を折う
回ひうこ房市こをうり回う膳にてき世話寡めれひ一
れ人を三相こいうひとんの事伝伊の五毛田市を祝一こんず
ハこうこうに祝きこて系はゆ一あハさんこを家を除り
りや詠とこうん世系世話にいまにとふをこ行候
こうめも古の紀考を祝いうにのはとんあ一海こを得こうや
聚きを一一三の世望こ回ると云こあるんやにふやうもかく膳
きありこそ系乃嬉姫千歳乃苦一てのこ形る女こやか
一こ系を男をあをハようあこる世こ三朝小一ずなこ世一こと阿
屋りんやまく世祝世を徒とうるんふりとく世一こと阿
伊云もりはそうみつうこ世ふりかるをふりはんこしや
世紀今こ人乃国の市山云を又異人茶こうんまと怕とて
房山扇の屋まこうこ世ねをこて里こぬやうり且舎こ下い

八上

親の病氣ゆへに熱發汗せしよりまぎれて痊(こゝろよく)又嬬女のこゝろよからん
なりきたりておもはれしは日を追て悦くる半眠半坐ひざち
梳し洗し房に入る禪衣(じゆばん)みんな紐を解も好みておもはるゝを
たゞつゝなく下女をして世話をせしむもとよりこゝろざし静に
新室(にいむろ)に到る衾(ふすま)の扇にいたれど下女は只長く見入るやうに
なりこゝろよく衾立てあれば程なく夜も高しやかてまたあまり
なりと云人連帳(あかめたし)合二下に(はれ)簾を上て入る田もしくは云兄上つと
よく常に近づきを喜び新婚を祝ふしなりと合二く
なりしは嬶にほとんどよく挿しまゐらせ小五ても冬の秋も備の
ほどのけ世の中にては言然るに冊貝雨の中に川の又小五郎の
新たかけるも更にいよいよ絆ぎて形とのくいとく合二は近くすゝめ
よしなに嬶の中からさよきおよろこひ合二もまた書め形のよ
なりしきる喜ふ赤冊合二の病上りし病をしひさるや鼻(はな)ひれと
て下女して房へ入るも田はしくもおぼえぬく枝葉同しく去小五郎

合二下にのやうにゆゑし事なりとも其人隠とものひさみ哉にておもへり人に想
妣(はゝ)は君世へ酌せんがためはなくなりなんことどもさくもなのの
むこかたは母の好むは批をもつてなりなん親(おや)病決撒(ホロヲミタサシ)さはやく去(ユイ)るく
罷んとき其ゝ夕迄にもかしこにいふせうとする病痊(いえ)てのとくゆるん
こともよせばなるし冊君をすゝめて人あらん扣をつくれと父あ
らためてよしなし帰て姐君を携てまゐらしめん田姻はあまら
をいふせんまでいと安しての為御後んとてうんにやせん小五はの歎
千思万思すれ共君は他くも許し吾も赤婦に聘すべきとき
ん事は道なし田婚道なくは君を見ずとも此を離れず魂を
なくは從りし何ゆめはほく有てもへしにみえんやといひきたり
ゆゑいひさと天のかく欲(ほ)しくなりと(ほ)くそのそろへり
君がまりよしくよしくとねを入りては隠よしくよりしと
北五郎もしのこるさを裁ひて何道なきやむことあり
一葉ひそかにめくらしさんぜき二人くるゝ留さし帰る事はかり

一日ひるまもろともに歩く箒へゆしく箒し弄せんとなく
もたりしかく日揚りと並し艸承母にありのよめ将料あるく吾
女兒に形見とも母すれはいつく房とえらく眠る日ハ三年
仁與る紅紺承母不意母り初時とかなりと絶命す中よりと
其てゆ乃んと形し日くりのみなくらとえてほとよく誕ひ遂
もしくいふあひしれのつ依さのしなてしいきくめくかきと村志
かんとするに新人物系いまるかゝれと抱きあしいつに母死
よめひとの母し絶世とく云りて止む母日さる事や有りん房より
中千母悪へさくちく声すなれ縫[スキ]首ようりのごとくて要と田兒と
そりつ他下に鉄くもし襟ありけるを云んとするに舍二下[illegible]
ともにようきおしへしふ母となんしは己ひ文二跡しまつもく房
此門帘[ノレン]とはりいて入る二人母ゑみのきるとえて目をしなひ
参りかを偏とゆりなるの此巾なしに戸を閉おりや又内に二
人女いりめ但相村ある布ありなかや帘と閉れて於ると絶しにし二度たまく

紅梅さつてしのあとく美しけなるみとすゆ〳〵かりとり川母きとて共
詞ふ他とえて衒とハ事なる事あとくえひいき後ま勇もかりひ
たらしとなりとて行へのち一向に到る巻女嫁後の向より眼く母君
ちぎりは仲よく番て云躬嫁有此事と之命もいつかりふと抗に
田兒初いたつかりの母の道をの襟仲みとふし絶る愛在にこのよめ
まうてようりて房とそしさしふるゝ事所くこまに抱てなさ[illegible]
田ゆいことをいられ母ちうりと行てんとせしをくれつ却て又
礼さいりでもあらかり田兒てうかりふれはかくしいはそのり果世
れかりてふぎ紀ちてえありしく索性藥里家へかりいあひ
いわりにそりあ路りしも休んつそりまとにんえん承もし
ゆかりーのいちかう死ふんといまに安らしむとえひ定てんそく
先此日せうしんりのいめく惕ひあると冊寡女よく知りあひ嫁
子にまいりつんりのをもし孙し譲親此日とわえん事とといひ
をこせしに又母りつく日浊瘥多り夜在中のかゝるとへいて

ア稼して嫁せしめ黒川氏も自を国子ありあるに却し
せさるものの多くあるまま婦と為情乃ち仕事いまと世を
小熙い九十九まくれ者を圖ら今兄弟復しまれ
ちに第世わ乃ち世を名り里ら帰り姐くに模ま
いうこと多くとす小女ら二方にあ新ん乃ち形一
小五郎社書とりさしめ相割んら耐ることを新くを
母まこれ兄つけまのかる上ちにに偽りわん家母まて
いまもに怒りしこ乃なし一罵てもと兄言元婆の
さの式て男を女ちし一姉をすくく嫉妬害ら乃
光ちこなりあに逢てうりみとうりを田ちで小わを
母社呵一素んば多くうしむ家母姉をつに倒世ら跡
て妬て有家母ちうりを田姉ちこれて下女も共小ちうり
ぬ家母乃田姉をうり立中ちをうこちあ小りあと
えく房中事世母る他人も亦一面に家母の田ちうこと世

むるばれで紀見る北五田ちこ乃ち行てうあと国て胸さけ
新のごく虚を始て主高形し他金ん五ちく分ら去
とく奔りあり虚いこうこう害いうん小五あいうちく女れ
佛を打ち一黒中乃ち乃出し男る他露ち一房を出
て茅塔乃ち国を国ろひあるる奔る冊寡め印子れ同りにて
いう志を見てて又殺る紀又嬉し他人ちまち国てちち乃
移社跡を志ちく中を房うる冊寡めれきててく權の計こちに
てあり弟一と分かく道ちうちれ半球す三朝小して
帰りふい事ちう新へまに去てうり来ずれ如し赤来
こうて移うこうひあ姉妹くきづ付ちあしを仏で紀
まこいに所せん不首乃ち何小まと不用ちい女母ち
つ小愧ちうこく居形し他金言ち兒帰あいんすしを
あうこまくと第新母ちう弟行ち虚小女いみうれ国房を人乃
乃張そうこうを立ひ房ら球すりねてこうり来ち虚分ら時

夜宮外に去りし此雉親母に撞(ツキ)中られる志りし喜のあまり
奔りかへり来ることは此先一日のほどは隠しおきてくだされよし
もしも汝身けん狎兒の毋寡ハ五つ度かくしあり消息を待さハ此刑
蜂聞にまそのあれを回みさしうろを見ハ女ふ内外を云ひ外(ソト)も
より罵て道天乃於の下賤(ゲスモノ)なれハ老女は什麼(ナニ)もおもしらぬ
来て跡(アト)見えしくおすすめを壊(ヤブツ)て今ハ命を博(カケロ)すると物をせ
んとよく正に罵る間に毋乃心より志ちなりてんと云へと
ま汝く恐く躰娘をきちふ終れ着ゆへまして我をなぶるやと
力おちぼりはや撞し恨くやすま倒まて泣けちり毋
子ちかり跌(コケ)ましくあ一團(ヒトカタマリ)となる此家毋の以くかの棄て
てふ賤者かく争ひみせし那里さたりりやといのでか
つし一の奔く个影(カゲ)鬼(ケ)どもろんやの道(チ)つ棄はつくれしこ
たちに上りさんやよんひ下さん地底にへつやり出してんと
又思ひしここ言つふしりく醜ことを葉里家にまーしまさんのに

詞をつくり終りん円兒哭えてりあ一時よしふしにあまりと差(ハカ)へり
くし君へまこひ奉る小女神精をまひちて君にまひ侭のあれ
ゆとこの薬家に言ふ度回しハ五也般弥るハしめさあハまむ
許し給ハさらんにも一死あるみこに怛いる罷ていとしよ
と匠毋きんてにげく矣ひさくも世もなくかくて自在乃
語といへるべしこそはこのをと下しゆひ給まし要神定め
今あるハ如(白)くと言を変せハいつの形正(ナヲ)びもと旨んや歴(イケ)さい
なに故もか汝んと外と男ともハ仏をうよ御し又どもがもいつて言へ
こあかんといふ之面(ヲモテ)ほてりうちくへあ袖を捲てしおかげく
くりり毋も終みハ會の愛情娘此ちめくとふくをんみるにも
此びはもしや自おへをたのやすいしとてもやすまこれ兒くも
無ためく云ふ懺此こせしふもわしすき迎すち形式たり
ゆへあ此殺方をも布化さみらを嫁らしあんしをかくとゆうて
おかしさ侭めしさせんやいつのたとし圏たふにいもめ人こつみ

同じく妻は市ひとをひ後てたれ乃面体をそ者原赤へ
変し拾そめにうんい絶くかるべよ四けて冊乃紙
なにをそて無くしく赤冊も亦情みれふやてくをに在
うしるひ帰うちにまの彩れ病し病用と弁一帰赤す
房のかを経るに房中帰哭するたくくるすの又老素
乃ちらじ心くくひ多しとを色ば門帝を掲け向て曰こし
何の有さ海る家そじ事れ一を細くくやしと
きてけしくき彩半も言神出さばもなりさ制婦を恨
老元歯始くく害るれをしを色舎二の病れそし列る日を撞
でくを長くみごく説くく執意にかるす其後冊赤ち
養嬢を赤しいるくすに赤まく説するにれ一筆を弄
しの家を時し嫁やしれも要の膳を待てくへやれれる又
執意にむすめを国るやりをひ森をすの今かく伴ひく
ちやいやくいるる制婦息まにやるる形くれるる

赤君くるくるすくくみれ赤よせそ暴くいう雷れと写て云
ふふ老ちしれ赤しれ乃ちたをを孫るいるれ楽果めくぶ
嫁し恨しれれるいるくひれ仲形るまれに赤るを命をき
いくくん撞老ちも亦ふひふや世の時ふをや制書を撞倒れ
るれひくれとちれてるるふち三へ四へて又一国とふり
ちりひるる一堀とりてふれ了鬢たくてくこ弟て
房中るる舎二に執れ赤老大嫁去ちくくし近多
くんまくく相れよ舎二いるさ赤くれすみくとりさ
ゆ歌老まを幽くるこ病ひ初て産れるし又れ後ほら乃
老れつへさんを見れくはすのくよ体罷形かくこれ老
ほるとよ元歯哩と口に喧く嘩こいまくくれ赤者
いさくくるれれ赤くくくるあやさ恨るを同れくれ同
比ちれ人中惶くに愧くる俺てくちをいを後舎二
いまれきてきやれへ云乃等乃すし誓や赤母君本きと云ふく

かくてきの次舎に安曲を得て面土れ[illegible]半のを停止
して云さいの赤乃醜又は[illegible]揚[illegible]を[illegible]
きめ給ひし山東[illegible]すんでに[illegible]みを至[illegible]て[illegible]處地あ
らん扨又手初てはをつぐ山先田[illegible]ことを[illegible]ことを須も
てはをトのをきつ世[illegible]みかををりなと禁止ず姫子も新
ふ紀ことを賢[illegible]磨た向ひて哭ぐ[illegible]明乃義しめ江間乃水
祇掬ーはくを[illegible]を得しふこみ都赤の日世地狂第
家乃やのまし[illegible]を[illegible]たに耳しを[illegible]聴ともりいの
天[illegible]の[illegible]共こ[illegible]ーに[illegible]を次朝第赤乃了髪地戸を
出るを待[illegible]くまてもるに尋[illegible]どで女行ハ[illegible]
さりー祇狂二十條祇を最山ー行[illegible]道[illegible]ー
歌んさい世あーとを[illegible]せを徳つ[illegible]んーを了髪ま
料ーぞーてを[illegible]る動さうはを[illegible]に付顔ら[illegible]る[illegible]祇
待[illegible]を[illegible]を語[illegible]を狂剛に喜てをしー世醜本と薬里

に新ーをりをーをあ一場を出ハうせをしこを水使をめんを
くををんをうを宣いへ後ーに吾物ー帰せをんやとを
はに歌ーをりをあハをてをうく薬赤をを二五一十を新ー
赤ー世面をを伝をく薬をををいをにう薬里夫婦を日
感を乃ーをを乃ーを那をを今日第娶かる醜本をををていう
てをうをを世一紙に第赤ををけ身眞ひことをび敷を
変ーけーの婦をを婚侯世本をに何ををいに科ハ
とーをーをーをくうをりあハに向ををつのを宮ーをを赤
仏ーかーを男を高世をを世ー山早く婚ぶんをを世を山を
うんをかりをハ清ーを白ーハ乃ひをを尼かく門祇を損をを世本を
ふ世よをを本聴祇をこうへ時又をを方にをーをんを赤乃の
大後を尼ををーをに世をを世を尼ま多彦面ーををい赤く
ーを世ハ白ーををみの赤世早身をを乃ー魔ー
をを山も怪ーをを乃ひ陸を白何をかを本ををん

詞を信じ安心侮しひとんぞこあるべきにあらず
きこゝぞ人〻うん七郎罵て道まことかたの区八く酬本を
うち出て旅うように曉そしれあやまち仲面をゝ掩ひくま
老の上をそぢかくうを人をゝ舞ふの面を以
相ゝ仲つゝ人をおせうといつゝくはつゝあ既あを上く
憧きをゝ仲ゝ彦を歩ゝ上ゝ憧七郎まゝ仲ゝ上二
老ゝ犯ゝの家母舎ゝもこゝんとゝ捉をよ外ゝ武ゝ
二老相ゝ中ゝにをにすゝみゝ祈剛薩藩を罵ゝこれ
ゝゝを陶官府ゝあゝ上府裏のゝ戦行ゝまゝ弱奉
ゝゝんゝはゝ之一路ゝ立〻舎二文ゝに向薩軍ゝ中ゝ
早相ゝ来ゝさゝゝまゝ来ゝ一編ゝまゝあゝ舎二ゝ
ゝゝゝて曉ゝしゝゝやゝゝのやゝさゝの極ゝ〻ゝ来ゝすゝに
章ゝ人ゝに愛せん段ゝ彦ゝゝゝゝ是ゝ初毋家
乃老婆ゝゝの家を害ゝ門ゝ金ゝゝゝ世藏ゝゝ止ん

ゝゝを訟ゝゝゝ八ゝ舎ゝ寛ゝゝゝ誘ゝゝゝむゝ之
不住ゝゝ人ゝゝゝ意ゝ訴ゝゝゝゝ府ゝ門ゝゝ
ゝゝゝ所ゝ見世ゝ人ゝゝ後ゝ官ゝに到
情ゝ負世ゝ不宮西ゝ乃探題ゝゝて道ゝゝゝに
改ゝゝゝゝ犯ゝ事ゝ世ゝ乃探題ゝゝ斬ゝ且驕ゝの者ゝ恨ゝ氏ゝ
愛ゝ獄を斷ゝゝ仲ゝのゝ和歌ゝゝゝゝゝ連ゝゝ
あゝゝ長ゝ仲ゝ秋ゝゝゝ彦ゝ七郎ゝゝゝ
七郎ゝゝこゝの訟ゝゝゝゝゝて罵て曰老婆ゝ女
と爰酬ゝゝゝゝゝ還ゝゝゝゝ探ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
探ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

卅縫ゟハ彦八の女田作に嫁て醜し家ゟうじ嫌す年十九
小花貧くれど見いと早く親を失ひ或嫁をもつらいし
よめとらんことを申に女をいれておふし嫁を聞ゝ
さびしてむすめとを縦て今そこら冊小五といへる
ねらこ丹念かさゝあらかれとの家をもちでしを余
嫁縁をきゝしらす今ゟ納らハの方後り怪を読て小子
をのうちはらしめ判人殿乃陂下さし来て此孫を
ハ小子ら亦希まで下つ表ハ慈にあらくハ叔ハ汝
となり手く小變り後きこし免し待ち彦とめまて八
うにやと思すのみまらして思ひく中小花一子一女有男
舍二に冊永ハ寡婦のむすめ枯杖めを助し妻とせん
としハ女田作こと是ある七郎の兒子田わら許し七郎
そそくらくんまをやせば女ハまるく中の多二ツ不い
兄の親をこうしてと存し田五ゟよく中さる間に辞はらず

吾舍二が病て鄭に計まうって枯枝とよくちを思ひしきらば
ひとりねさせんのハえりくもて同おこ浅国丹千代ろよめに
添ひしきあがしにのふむハよせぬいん中冊寡行さしさして
嫁を藏しまゐ北北五郎を嫁に似世紛ひしよめにしたて
し丹後らくハ五ら田代ゟに徒を抱しや婦る守ます中をひりめ
て宜てみたどくの女に出ゝちよ愛にほめくと顔る言やとハ
なとくしり此姿をなすせ自然てこ形ることあらくハ下
ふ見とめさるやまの彦道婚事てかく貺贋物なりんと退つ給も
よしきゝ文ハ五郎の妻なるまとなへせ不可なり夫婦しと
も丹万ながらてもならこかのた歌し守り之冊寡の嫁を
もろゝ娘こ御しよ免もて今御のこと免てまなる嫁
女らしうく中りし来中人あらん又同福ハ五十いはハの家
を嘉やまい彦中飯て逃れかくるきいそぎよりひまへして
冊寡女母子三人を免しより多文舍二同ひろこ兄弟共に

に年ごろ世審さに成やそなたを慰しそなへ来れば
深く特殊の女の婦美をそなたりに二人の美形面龐二条に
くれとろくそなたれみめうち舎ぞも都こまさく人物
開霊たりこの艶さ言をやこの形ようなれ百そ高く
ようしひ気に加すくらくかる美青年ともたくはう
ひそなたさすを帝ほさせんは意らうにたり無寡そ問
なるく男をれふごとく世南をざ西あまさくこ乱
婚姻害すや無寡すは軍事病ちまた技親乃吉期
そもかそなぞ変ありんすは小野の一生をそこふ乙を乱
事を問せ知ま世事を視ケすと三月ま先里に帰しめ
てそなそしたりそなたりうめ乃策さうるにそなたすす
むすめ隠蔵さ分てか新に有さ論そふりは歳の物と訪ふ
まれまくまたひこ伝はしそ免舎二の病おもくい祝言の
日ぞうそて期し無ふこよりやそれ醜事そいかそ

むすめ迎まさ乱ぞくあやや真彦ト す私めと世西きを制書
このまそ夫に酒ひ時をか和れ悔となそりまれすかは冬
一条乃そなと女そそれそきくやそ又北五田用そ乃ものふし
男とまく女れまそ夫ぞそれ有ましそれと又宮女を好ス
ふんれ罪をこの得へりんに五言上にそし 来るふをたりす
世家毋それ姫をまこ伴世毋まるまれまふりしいふ撰の
やとこそ云を紀すに日ひそこなとて係の一家しいふ撰を
うつそ世のそ世なそそ母辞ざそそく辞すれ世家世三
さこのはば寺日こそと廣を西さんに世事書る廣今世の
年いまそ世とを世そすす世うく双乃又世そそとをふす
にそりて獺そゆそ成に五帝さそうの武臣て誅す寺又
ふひそこ毋西まふ撰の事除かく外古別そまくに不
良今ド田五そう来こ考んやに五に多とよ世んれ心はりそ
でいへ田用なくく道鄙女那ぞちふく野く食蜂を蘭かく

世寅きゝうへに又こゝ母丹事んや況やわ五ゝ恩のく哲ゝ人哲ゝ
弟承形しかゝしかゝしかゝおならすい鰍女ゝ死をあハゝむ
ゝ体生ゝ笑少に乳せるくやとさゝてゝひかゝとゝ鈴く
字ゝ月表情ゝとゝに行ゝゝしまゝとゝる体新ゝ情ゝて惜ゝ
且ゝ〳〵ゝゆゝゝめ五薩里ゝ命を呼て母母ゝゝ母ゝ
ふゝしゝゝ方〳〵帰す色紙ゝ也命ゝ多を矢ゝ節すてに商ゝ
ゝゝ世ゝう〳〵めゝゝを門ゝゝとゝゝゝゝ世ふとゝゝゝゝと又ゝしゝ二
丈の房を蒙ゝん水ふ安ゝゝとゝゝゝ五ゝにゝゝと妻ゝゝせい
世ゝつゝゝゝゝ聘を、ゝゝさゝゝん田五命いゝ蜂ゝ聘ゝ
風羅ゝん七命言上すゝゝゝ義ゝゝ爭ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝし既ゝゝゝ五ゝ家蝶ゝを中ゝ敷ゆゝゝくゝゝ戸ゝゝゝゝ
ゝ反ゝ同ゝ嫁婦をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
世井ん世ん今ゝゝゝ掛紙ゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
探ゝゝゝ去ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

むかし人一半ハ閨せんと爪書跡をよみかはしをつかひなり
人に何ホゝの田舎にて見ても書物は亦言よするに五ツそや書首
中にも扇に形ありし探題はじめて北五ツ書けるをときしるゝ
ひとつ世に五つゝより女房あらさゝらるゝ男女をこそあれしら
今の乃女は人のにたりし書き物に皆口を閉て言葉し探のゑく
又白くちみ女房何かの事の姫のやさしひとよりらしあまり人
つかへせし妻は相床守侍沢山の女房めとまりに赤ワラ家へ
呼むかへ伝しは見ても立ちしまや秀越し家しとく藤一
ふみかなしきすに五ツ女房めりくいちて宿へ入す
今あるはうちもたは花は其後は妻まで泥女ともくいまうし
田五ツにゆゑ何はせん客は宿せよ七ツ半譜て下次君の明ゝ
断れて背き奉りむさいゞ侍大いに存せん中探題とも
はなしあなちのどうするはかはそしんやめくよく宿下へ下り田舎
はしり侍ゝ左ちん若の子帯をかきしもせ

所あく配さす事一七所宿丹帰り田五を帰して官府に到る
宇佐次すれば女をつとに鷹一疋に畏る探索見のかて
女赤乃たとく女黒量とつく一對なるを折くて糸を合の
附てさかりて用言書さすまひうん一乃壽と出一後さ金
今二つ小五つ田五つ上世ゆ三る壽事れ乃と
呼くくれ味ゆうんと正さくまり初丹北五つ出くつかれ
みかくく一すれよさ掬しかうく其一と道ゆ田五
糸使しゆ苦しと道三る舎二鏡しや一味水三集
石味あるをお壽れすくにるく其一とるい
意終ゆて行しかうかき爲うるれ中乃ゆ
きやうみ日れ乃和五しとや田五ゆ苦しとゆ
しうたるれきゆと乃ゆなる見とゆ其をゆれ書も
とれゆを与ゆ乃ゆて新婦に為へとれれるゆ
う爲くるる丹後ゆ乃ゆ苦しゆ

和まあうんさい舎二ゆ配しきすれしを石ゆれしるる
丈物いるとるひるん配ゆ住ゆるゆ前ゆて枯ゆゆ
もゆるす舎二まるはるる住誠て自為の為ゆ次ゆし
みふるゆ婚姻い天ゆしくんれよく私まれれるすゆ
負世入道て後ゆりかゆ舎世陣をゆるるゆまつ宇佐八ふ
ゆ生ゆれるれれれ五るまゆ私ゆこの為と私ゆくくなる
ふ料くて後なるゆとゆて他この女すゆ為を留ゆと
めゆつれ舎二まるゆゆれゆれ乃許ゆ三永納得しまくと
婚しゆ儀しれひふくはるくやく記人出よゆ違宵て
るふく曲ゆくるれゆ宇佐次ゆ形冊寡女うくれなる奉
らん者るるれゆるゆかるゆ那くるゆ海ひるこゆるこ
くて大ゆて後姻てゆる判しているゆ
れとれゆ婚ゆれゆ代くるゆ為ゆ次れゆと嫂ゆれ
しゆゆゆる一雄れゆれ外ゆ出つしれゆるゆれゆ

近ろうれさうにもゆる沈時、ざれ玉をもて夜光り
配す共にうつくしき冊氏いひなに因て女房を招寄
をぶぐれて墻をこゆる事、らせず冊家乃ものすめい兄ちめ
うつくしき女を得吉士沈ゆるふかなを衛さわるに
恨て婚沈す夏、蕩れまうらはのすれ丹岡の玉田五郎
沈しとかれに藻氏の婿ともてかかるを聞をあらかめ許
乞人乃婢を集へやくしをかすれ婢をうらかくもみくる式
沈れうるに兵衛長の独楽しているーせいくと楽すうにこの
に今三乃めうを水面くともふう振かいに焼ともし
十沈十年一百くしー(紅)うるん(保)ーうるに口を交ゆ千乃ものも
是かくるに愛をもるくたにいるうるに冊ちるに自(ナカラト)水く
ちなる新沈にあるるうるもて是沈るこの宮房うりにうる沈賀
うるめくめて巳ちる斷を任をうるくるる期を期ら
俊考ちるうるを雪ーて九州乃氣人をうるうるて記ーむ百千と

人間を形ーー恨沈ちて仙ちる井んにをうんくうる沈ーてしく
俊君れ明哉ち称ーー奉りうるるかーーはくるる猿ちを保ー
いる井ちる哉乃されを言沈冊事京都ふ訪ーてもれ定とれ
すちるくる道ちーー不ち方俊沈行ひいる冊大まれ徒を御ものの
嘗しかくるく勝ーくちて言ふーーるもーうれ白蛇柱冊ふ
蕩氣をれーー爭鴨氣をるうるくれるんとうひーにのく
大ちる乃斬ふまるくる善なるるる二氣一ぎんの桐(アカツ)ものるる街
用れ義徒とふーー醜ちせを柱ーのちれるるるるるぞやーー
ちるふるをれるいするる探氣舎二帝小ふ沈取く秀ちとふ
えやてふ祭せすめ将軍氣の士と敷るるる柱男みはるる敷
くるるるる王ちる安ちる氣ふるくくる所沈ちるるる紀行ふ後く
俊後舎二北五いふーーるる京職ち任ーーく行ちるれるうる
舎ちーいーちる筑紫ちる帰り学疲れ職と氣ちる豊士を形ち柱男ら
氣沈ちるるくる天て冊氣ちる柱ちる蕩氏ちる柱期沈ふ五

明和四丁未年秋

古人きつの志の白髮を拾ひて寫

待今宵十三夜ゆめの扇の形　守武

よるのもみぢにせきや柳髮　貞德

抱くぬてもはいゆるさぬ梅ぶし　貞室

ねとるあやの巫女かと後髮　西武

面白の神ゆるかあの化粧の形　望一

左義長ほこらぬ東の俳の袴　季吟

仁かかぶる婦のほとりぶく

ほとゝぎすはかなの形ひとり財面　宗因

玉津島にて

青面みゝとぎすの星姫赤彩足よ　素堂

象潟乃雫面施の合歡赤花　仁世成

紅梅の姫すの陰る妻戸こつな　牧風

宿こんよりや赤ゑ入る蓮の猫　嵐雪

ちる婦共ハ一虎の空　其角

うの人をみど見ん秋ぬ　去來

早し世やなきて後見て知る　支考

うゝめく取すゝる焙炉哉　し由

ゆしめ絶人ゆく宮の後の形　言水

つし芦さけ〳〵せい河よ百〳〵ゝ　百里

紫陽花や髪も切すれば紅住　鏡湖十

小姫子乃舞ひ乃舞ひ松ひ〳〵も

梅立て杖ゝ出て踊ゝの角　氷花

曉に桜咲名残の太刀佩て　支麿

元日に登やとゝめ春行ゝ　佑德

ゝの恋ゝ跡ゝの巨燈ゝ　堤亭

名ゝ〳〵お芋ゝ里〳〵夕比丘尼　青我

菜花ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ　洼湖

ゝ〳〵原のゝ杖を初る初よ　杜鵑　宗瑞

六日よ日後ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ　女七夕　不角

茅の戸にお〳〵ゝ乃　背や女背　琴風

卵ゝ春内ゝ〳〵ゝ莊に使ゝ形　そのめ

[illegible]を世間と見て宗酒月　馬光

悪人に成て終を来る時面加南　紀明

[illegible]仲達に[illegible]柳亦　[illegible]　涼光

秋の[illegible]第七遊女の[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]やうの[illegible]朝[illegible]　[illegible]和

[illegible]ずに[illegible]物[illegible]の[illegible]　自来

世[illegible]人に[illegible]　牡丹　大梅

[illegible]

牡丹さく[illegible]石菖[illegible]　里露

[illegible]は酔て[illegible]　瑾

[illegible]　柳吾

かつて男性[illegible]　[illegible]　[illegible]生

世暑[illegible]　白雲

花街[illegible]　當時

[illegible]市や[illegible]　草　久住

出かけ[illegible]町口　[illegible]

悪人[illegible]　[illegible]　[illegible]

朝ゆふ頃ねたるうまみる　同役
日の出や三日見物する乗馬　馬式
うつゝ離れて語る女の形　糠丸
足駄金五両走馬燈まうけ　〃
人待女蚊帳ふるひとく蚊柱立て　来〃
ふうけるひとく蚊柱立て　斗久
末娘人をまねく蚊帳　鑑来
ゆうべ空やみ和い娘のこゑ　祇完

浮世小出る恋まぶ思ふ　魚鼎
門涼娘の白ひかるや物のもの　万翠
頭巾みゝ隠ゝ涼せかきつゝ　新太
ゆうるゆうも思ひ出ふ物ゝ　筠戸
ものゝ面だゆるまも深のあ　雨月
新町の酒もち特ち銭く極毛　麦由
見初いくさ屋遊ぶ射る　二橋
夜絵夜ゆ夏乃ゆるの巧　市川　四南

みやこの秋とゆふ葉一ときは　蕉雨
市川
きりぎしの乃ぶ花さく物影いなりの山　泉布
別路をもとめあとをきくさうりの　莫我
肩まくり別れ妻とあつさうの　千極
恋路やゆきてもとる秋の　五橋
紅葉や姫彩る峯の　乙鷹
中へど求ぬ奈良の物風ゆ笠　古芳
るる来る嫁入も有花聖の　子梁

高しもに蛸しつ六さためぶうれゆく
かりうゝ法華経
けんせつ油乃かゝ新竹籠　冒如
行ゞ人ハ社冊ゝ乃恋ゝ　逸高
曝も高ゝ冨士やほゝます　物英
夏白の金ゝ雲乃ゝ多の思ひ　興子
逸塚乃宮もゆゝ思あさみ　紫江
昍ぜ世ゝと足法紀ゝ参ゝ一丈蟬　阜市
うゝぬゝ市はつゝ筑ゝ広場　尾跡

行る遊女妓女の行へ帰りてやる　石和　柳慶

拾ひ集めかる藻の下の秋乃雲

如儀得船をさる事

出僧城の せくるを二挺立　二橋

小松き姿なる新人をさ二人　絵戸

今ハ是待をるしの野や郭声　作者不知

姫みれの一ハ　野の　買水

ムなき山をろして松乃雲の紫かつ敷一

星ひるるなのおと風　きり軍るる物ゝ

うりさは為ふし

大ゆてゆ　うれ方や国の　橋川

にのまき品や普請すゆる家乃書　亀成

遊女ゆも敷る松あり田植行　度郎　揪鯉

雲の油ゆり　りやとの菜稿　魚明

出公屋のひとかさて　雪ゆる　度郎　亀山

梅幅ハ伊逆する鶴ゆ　小石和　素流

ゆ〻積ものゝ　ゆ〻ゆま蔦　欺雪

置見るハ日や星乃物ゆ　正谷

東鑑ゝ十帥ゝ書虎ゝ呂ゝ有

[illegible] 江戸 三冬

[illegible] 馬為

[illegible] 坂 [illegible]河 三遊

[illegible] 日 僮山

[illegible] 黒潮

八月吉

資皇 梅英

江戸 石井右衛門 彫工

きらのほん

矢部川